

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.23

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
<http://www.ict.ne.jp/~hakua/>
E-mail：hakua@ict.ne.jp



photo: Daishi Hatada

梶(旧姓 菅) 恵理さん(高55回)

愛知教育大学 教育学部 北海道東川町適疎推進課
環境教育課程卒 に出向
2008年 郵便局(現:日本 慶應義塾大学大学院政
郵便)株式会社入社 策・メディア研究科修士
日本郵便株式会社 総務・ 課程に在籍
人事部課長

すでに移住者も多く、様々な施策が打たれている東川町で何ができるか見つけられず、モヤモヤする日々を過ごしていた。そこで、これだけ町の施策が充足しているのであれば、地域の課

リビングラボ 郵便局構想に到達

ら研究フィールドである北海道東川町が長崎県志岐市のいずれかに赴任して、活動することになる。梶さんは、どちらも行ったことのない東京から相離れた地域で、ためらいはあったが、慶應義塾大学の玉村雅敏教授と横浜商科大学の小島敏明教授の共著で、著者自らが「まちづくりトラベルガイド」と称する「東川スタイル」を読み、東川町は自然が豊かということ以上に文化度が高く楽しめる町だという直感が働いた。出向する一年前の2022年から、月1回のペースで東川町に出張し、出向先の東川町役場の皆さんとの関係を深めた。

3年生のクラスは文理合同クラスで男女比も偏りがなく和気藹々としてい

上野高校の 楽しい思い出

終えることになる。そして翌年3月で、東川町での業務を終えることになる。



リビングラボ拠点の東川郵便局

北海道のほぼ中央に位置し、面積は伊賀市の約四割、人口は一割の約8500人が暮らす町、上川郡東川町。大雪山の雪解け水が長い年月を経て地下水となって運ばれてきているため、北海道唯一で全国的にも珍しい上水道のない町である。写真によるまちづくりを積極的に推進し、全国からの移住者などで人口増加率が北海道一位を記録した町でもある。その東川町役場の適疎推進課に日本郵便株式会社本社総務・人事

北海道の真ん中で「リビングラボ郵便局」に取り組む

大好きだった 郵便局の変革に遭遇

大学4年生の就職活動時期はリーマンショックの前年、比較的景気も良く、複数の企業から内定をもらった。ただ、小さいころから居心地の良さを感じ、大好きだった郵便局が郵政民営化により大きく変わるタイミングに遭遇した。従来の郵便・貯金・保険の3事業に加え、例えば、ホームクリーニングや引っ越しの取次サービス、郵便局内のコンビニの出店、商業施設開発など、新規事業を他の業界・企業等と連携しながら積極的に取り組んでいこうとしていた。郵便局を拠点に地域が必要とするサービスを作っていくプロセスに自身も参加したいと考え、郵政民営化後の一期生として郵便局株式会社に入社した。5年後には窓口業務を運営する郵便局株式会社と物流業務を運営する

社会イノベーション 研究室の一期生に

社を見てみたいと感じていた。 ちょうどそのころ、日本郵便は慶應義塾大学SFC研究所と連携し、日本郵便の機能や資源を活かした社会課題

日本郵便株式会社が合併し、現在の日本郵便株式会社となった。 入社後は、金融営業の企画、広報部門で社内報の作成、直近の郵便・物流営業部では法人営業の人材育成と多岐にわたった業務を担当したが、会社のシステムの中で、日々の業務に従事しているだけでは、郵便局の可能性を俯瞰してみることが難しかった。当初の想いに立ち返ってじっくり考えたい、社内から少しだけ距離を置きつつ、自

東川町との出会いは 著書「東川スタイル」

社会イノベーション研究室のプロジェクトメンバーは、2023年4月から

の解決と、未来を創る人材の育成のためのプロジェクトである「社会イノベーション研究室」が立ち上がった。プロジェクトメンバーの活動は、地域社会の課題の解決や魅力創造に向けた新機軸を提供するテーマを設定し、実際に地域に軸足を置き、SFC研究所や地方公共団体等と連携・協働して、その実現に向けた研究開発に取り組みすることである。そのプログラムのひとつに慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程への進学があった。メンバーに選ばれた梶さんは大学院の入試までたった二カ月しかなく、必死になって研究計画書を書き上げたが、不合格となってしまった。再挑戦を決意し、猛勉強の末、半年後に合格することができた。

部課長で慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科に在籍している梶恵理さんが飛び込んだ。 郵便局のリソースやネットワークをプラットフォームとして開放し、東川町と連携している企業や地域活性化起業者、地域おこし協力隊のメンバー、役場の職員ら他に地域住民も郵便局に課題を持ち寄って地域に必要なサービスが生まれていく発射台になればよいと様々な実践を続けている。



東川町役場で

題を起点とすることに拘り過ぎず、自分が良いと信じることに周囲の共感を得られるように説得していく形でも良いのではいかと考えた。そこで、リビングラボを郵便局で実践することの考えに至る。

修士課程修了から 次なるステップへ

梶さんは日本郵便株式会社の「社会イノベーション研究室」のプロジェクトメンバー、東川町役場職員、慶應義塾大学大学院生として、郵便局の場を活用したリビングラボの研究を続けているが、当面の目標は2025年8月に、研究テーマであるリビングラボ郵便局が東川町に与えた影響や効果を検証し、修士論文にまとめることである。そして翌年3月で、東川町での業務を終えることになる。

リビングラボ郵便局を全国に

日本郵便の本社に復帰すれば、日本に東川町にしかない「リビングラボ郵便局」を全国に展開したいという大きな夢がある。人口減少や生活関連サービスの縮小など、多くの地方自治体は共通の悩みを抱えていて、地元伊賀市も同様の状況にある。梶さんには引き続き、郵便局の可能性を追求し続けてほしい、伊賀市にもリビングラボ郵便局ができることを期待したい。

リビングラボとは

「Living(生活空間)」と「Lab(実験場所)」を組み合わせた言葉であり、その名の通り、研究開発の場を人々の生活空間の近くに置き、生活者視点に立った新しいサービスや商品を生み出す場を指す。また、場所だけでなく、サービスや商品を生み出す一連の活動を指すことも多い。組織外からアイデアや技術を取り入れながら、新たな価値を創出する「オープンイノベーション」を実践する場として発展してきた。(高24回 吉輪康一)

同窓会活動のさらなる充実を目指して



同窓会会長 左橋 佳三

会報「白亜」の発行に際しまして、日頃の御礼を兼ねましてご挨拶申し上げます。

平素は同窓会運営に対しましてご指導頂き、また年会費のご納付等、物心両面に亘りご理解ご協力賜っておりま

すこと、誠に有難く厚く御礼申し上げます。昨年引き続き11月には講演会、懇親会を同時に行う通常の形で本部の総

員を迎えることができました。また、事業につきましても、例年通り横光利

一先輩を偲んでの「雪解の集い」を3月に開催頂きましたのはじめ、会報「白亜」の発行、上野高校生徒諸君

或いはクラブの全国大会への出場に伴う激励金の贈呈、東京・京阪神・名古屋の各支部様へ支部活動の活性化にお

役立て頂くべく助成金の拝呈等、計画通りの事業を遂行することが出来まし

た。ただいずれの事業も前年からの継続的な事業のみで、新しい事業、特に若い

会員の方々にご満足いただける事業を行うことが出来ず、大いに反省いたしますと共に今後の課題と位置づけ、

皆様方からのご意見も頂戴いたしたく存じます。一方、ロシアのウクライナ領土への

侵攻による戦争、或いはイスラエルとパレスチナのハマスの激しい争い、

また国内では新年早々の能登半島を中心とした地震の発生により多くの方が犠牲になられたのはじめ全国で地震

が頻発する等、不安な日々が続きますが、会員の皆様方におかれましては

森永侑樹さん

(高62回)



「しゃぼん玉さいごは〇〇に触れて消え」あなたならこの〇〇に

どんなことばを当てはめますか？

俳聖松尾芭蕉(愛称:芭蕉さん)

の生誕地である伊賀市の教員を中心

とした、子どもたちに俳句の楽し

さを伝える活動をするグループが

あります。「せんせいの句会」は

3年前に立ち上がり、「まずは自分た

ちが俳句を楽しもう」という方針も

と、現在21名で句会(俳句の交流会)

や各勤務校での実践を行っています。

そして今年、芭蕉さんの生誕38

0周年を記念し、俳句のカードゲー

ムを開発しました。その名も「THE

kuikai」です。普段学校現場で勤務す

る中で、ことばを上手く使えなかつた

り、上手く受け止められなかつたりす

ることで、トラブルになったり、悩ん

で、自分や相手を傷つけたりするこ

とも少なくないと感じます。ことばを、

人と人をつなぐものとして使えるよ

うになってほしい。ことばを通して、

自分のことを自由に表現できるように

なってほしい。色んな考え方や価値観

があることに気づき、認められるよう

になってほしい。身の回りの美しいも

のや、誰かの優しさや、小さな幸せに

気付いてほしい。といった思いや、伊

賀の多くの子どもたちが、夏休みの俳

句の宿題に悩む姿を見て、宿題の時間

ではなく、遊びの時間にこそ、俳句が

在ってほしいという思いをこのカード

ゲームに込めました。

この「THE kuikai」製作の資金集

めとして、7月15日まで行っていたク

ラウドファンディングでは、みなさま

のご支援のおかげで

100万円、セカンドゴールである1

50万円、そしてサードゴールである

200万円も達成することができまし

た。10月12日(芭蕉祭の日)には、完

成発表会・体験会(参加無料、定員50

名)を行い、順次伊賀市内のすべての

小中学校に届けていきたいと考えてい

私の近況

今後、伊賀の様々な場所のテー

ブルの真ん中に俳句がある未来を目指

して、またそのテーブルが誰かの「居場

所」となることを願って、活動を続け

ていきたいと思っています。

私は中国語は出来ませんが、CDや

YouTubeで聞いて楽しむことが出来

ます。④墨と筆で書画をかくこと、⑤

創作すること、の5つです。漢詩の形式は、絶句、律詩、古詩な

どがあります。七言絶句を主として

安場 博さん

(高15回)



私が漢詩に初めて出会ったのは桃青

中学3年の国語の最後の授業です。先

生が「王維」の「送元二使安西」を紹

介・説明して、吟詠(レコードだった

かも知れませんが)をしてくれ

ました。高校に入学し、漢文

の授業があり、読み方と解釈

の基本を学びました。大学で

は吟詩部に入り、漢詩の吟詠

をしました。会社退職後、漢

詩創作のグループに参加し14

年間続いています。そして現

在では、漢詩創作を趣味の一

つとしています。

私は漢詩には5つの楽しみ

方があると思っています。

①読み下し文を、声を出して読むこ

と(漢文の授業で読んでみよう)、②

抑揚や調子をつけて、吟詠すること

③中国語(漢語)の発音で読むこと

だり、自分や相手を傷つけたりするこ

とも少なくないと感じます。ことばを、

人と人をつなぐものとして使えるよ

うになってほしい。ことばを通して、

自分のことを自由に表現できるように

なってほしい。色んな考え方や価値観

があることに気づき、認められるよう

になってほしい。身の回りの美しいも

のや、誰かの優しさや、小さな幸せに

気付いてほしい。といった思いや、伊

賀の多くの子どもたちが、夏休みの俳

句の宿題に悩む姿を見て、宿題の時間

ではなく、遊びの時間にこそ、俳句が

在ってほしいという思いをこのカード

ゲームに込めました。

この「THE kuikai」製作の資金集

めとして、7月15日まで行っていたク

ラウドファンディングでは、みなさま

のご支援のおかげで

100万円、セカンドゴールである1

50万円、そしてサードゴールである

三重県立上野高校校歌

正格陽韻

伊賀の平地は、路央央

賢友俱来緑樹岡

白亜深窓誉学舎

高論受講自昂揚

伊賀の平地は、路央央

賢友俱来緑樹岡

白亜深窓誉学舎

高論受講自昂揚

伊賀の平地は、路央央

生誕100年、奥山茂美先生を偲んで

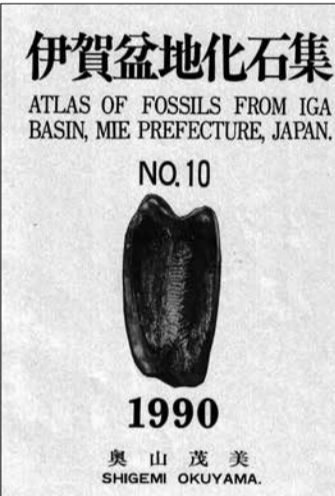
東博さん
(高14回)

ワニもゾウも 伊賀で化石発見

「ワニがいた！ゾウもいた！400万年前の伊賀」
大山田服部川河畔・せせらぎ運動公園にはゾウとワニの足跡化石がレプリカで再現されています。この一帯は、現在の琵琶湖の元の湖・大山田湖（古琵琶湖）があった所で、湖畔ではゾウやワニが群れて生息していました。
奥山先生は1980（昭和55）年頃



床や横山陶土鉱山、佐那具の道路工事現場など17カ所で発見が相次ぎ、真泥では奥山先生が国内最大級のゾウの臼歯化石も発見されています。
これらのゾウ化石は、当初、種名・シンシウゾウ、亜種名・ミエゾウと命名されていました。ところが、国際動物



『伊賀盆地化石集 第10集』
奥山茂美 SHIGEMI OKUYAMA

から精力的に伊賀盆地の化石の調査・発掘に携わっておられました。
1993年の台風一過の大山田村（当時）平田・服部川河床でゾウとワニの足跡化石が発見されました。奥山先生が中心になって調査され、新聞で全国に報道されました。1994（平成6）年には、奥山先生を含む「服部川足跡化石調査団」が結成され、現在地にレプリカで足跡化石が再現されたのです。
その後も、ゾウ化石は、柘植川の河床や横山陶土鉱山、佐那具の道路工事現場など17カ所で発見が相次ぎ、真泥では奥山先生が国内最大級のゾウの臼歯化石も発見されています。
これらのゾウ化石は、当初、種名・シンシウゾウ、亜種名・ミエゾウと命名されていました。ところが、国際動物

学会規約の改正によって、「種名・亜種名は同格に扱う」と決まりました。
伊賀のゾウ化石はシンシウゾウに先んじてミエゾウと命名されていた経過があり、命名規則による優先権が適用され、学名が「ミエゾウ」に統一されることとなりました。全長八咫背丈四寸という日本最大の巨大ゾウ・哺乳類動物だったのです。
さらにミエゾウは、530万年前に中国大陸から日本に渡ってきたステゴゾウ（コウガゾウ）から進化し、「日本で誕生した独自のゾウ」であることも解明されています。
現在、ミエゾウの全身骨格復元模型は、三重県立総合博物館に、その祖先、コウガゾウの骨格復元模型は滋賀県立琵琶湖博物館で展示されています。



化石を採集する奥山先生

『オクヤマウサギ』 化石新種認定

奥山コレクションの中には「オクヤマ○○」と命名された幾つもの化石があります。昨年、その中の一点、

奥山先生が亡くなられて20年、生誕100年を記念する年の快挙となったのです。先生が御存命であったなら、どれほどお慶びになったかと思うと残念でなりません。
上高時代の奥山先生は「地学」を教えてくれていましたが、多くの生徒には「写真家・奥山茂美」のイメージの方が強かったかと思えます。いつも、2、3台のカメラを肩にかけ、集う生徒たちに気さくに声をかけ、撮影したり、自在にされているのが日常でした。その撮影技術はプロ級で、作品は何度も週刊誌の巻頭に掲載される程の腕前でした。
一方で先述のように、化石や地質調査という地味な研究をされていたのです。「現場1000回」がモットーの先生でした。特に阪神大震災後は、地震・活断層の地質調査研究に精力的に取り組まれていました。
気さくで自在な姿と、研究に対する熱意と厳しさの両面を持ち合わせた先生は、私たちへの垂範となっていました。改めて、先生に教わったことを誇らしく思います。
末筆ながら、生誕100年、先生の快挙をお祝いし、併せてご冥福をお祈りいたします。

功績再発見

羽根地区の道路整備や白鳳梨生産組合へ梨選別機の寄贈、上野高校体育館へ段帳の寄贈等、ふるさとへの想いも忘れない、誠実で善意の人であったと言われている。
創立100周年に刊行された「上高新聞縮刷版」の昭和40年前後の記事には、前田久雄の名前が何度も登場している。人材の輩出数においては、上

誇り高き真空管技術者

前田久雄さん (中25回)



全」という本に登場している人物だ。上野中学校を卒業しているようだとの情報から、この本の著者橋本明洋氏（名張市在住）よりお借りした資料をもとに、前田氏の功績を紹介する。

明治41年中瀬村羽根に生まれた氏は、上野中学校から浜松高等学校電氣科（現静岡大学）に入学した。「テレビの父」と

将来を予見

「前田久雄」という真空管技術者をご存知だろうか。3年前に自費出版された『銘柄400種日本真空管大

学）に入学した。「テレビの父」といわれる高柳健次郎教授のもとで技術の習得に努め、卒業後には若き真空管技術者として早くも業界の耳目を集めるほどであった。
昭和30年、トランジスタラジオの将来を予見して、東光ラジオコイル研究

所を設立する。テープレコーダーの成功で名を挙げた東京通信工業（現ソニー）の井深大氏よりトランジスタラジオの国産化計画の相談を受け、その性能を左右する超小型コイルの開発を進めた。技術課題を驚くべきスピードで解決し、コイルの基本的設計方法を確立する。やがてトランジスタラジオは日本の輸出の花形商品となり、東光は名実ともに世界一のコイルメーカーへと駆け上がっていった。当時、敗戦後の日本経済の繁栄はトランジスタラジオのお陰とまで言われていたほどだ。
そのコイルを世界に先駆け開発したのが、前田久雄その人だったのである。

コンピュータのメモリー開発も
昭和37年には電子計算機の分野に進

出、記憶技術装置のワイヤパラメトロン、ワイヤメモリーの開発に成功。その後社名を東光（株）に改め集積回路（IC）への挑戦も始めた。
昭和40年、科学技術の功労により、科学技術庁長官賞、東京都知事賞を。昭和41年、これまでの電子産業への功績に対し技術者として最高の荣誉とされる紫綬褒章を授与された。優れた発明家であり、常に独創の道を歩み続け、誇り高き技術者であった。
羽根の白鳳梨直売所すぐ横の永福寺は、前田家の菩提寺である。伊賀の美しい山並みと広がる梨農園を背景に、久雄氏の詣墓は静かに建つ。その両脇には彼の業績を称える墓碑が、繋がりのあった人々から献呈されている。
紆余曲折の人生にあって絶えず協力者に恵まれ、また同郷、同窓の不思議な縁にも助けられていた。

誇るべきウエコウセイ達を改めて振り返る機会になればと思う。
橋本明洋氏は前田氏顕彰のため、ご親族で伊賀市在住の前田洋氏（高14回）だけでなく、ご子息前田久明氏（東京大学名誉教授）までも訪ねて、直接お話を訊かれています。この記事を書くにあたって、その貴重な情報や資料等をご提供いただいた。心から感謝を申し上げます。
(高41回 岡森史枝)



伊賀市羽根の永福寺の顕彰碑

芭蕉翁生誕380年記念



古川タクさんデザインのポスター

東京と伊賀を繋ぐ 同窓生の自主事業

本年は芭蕉翁生誕380年記念の年。伊賀市主催で多様な記念事業が実施されています。32回卒業生を中心に活動する上野高校同窓生有志の会では、2019年から実施してきた「秘蔵のくに伊賀のキュレーションイベント」の第17回から20回として、伊賀市の協賛も得ながら本年合計4回の記念行事を、「人間芭蕉さん」に焦点を当てたテーマで実施予定です。2回はすでに実施済み、秋以降にさらに2回を計画しています。

8日に、伊賀市に生まれ、名張黒田の荘で幼年時代を過ごされた、旅のスペシャリスト、「平成芭蕉」こと黒田高嗣さんにお話を伺うトークイベントを実施しました。「芭蕉さんの旅行術と情報力から得る現代の学び」と題した講演を頂きました。近畿日本ツーリストを経て、現在はクラブツーリズムの顧問、旅の文化カレッジ講師を務められ、日本旅行作家協会会員でもいらっしやる黒田さん。旅をすみかとして生涯を生きた芭蕉さんの旅行術・情報力を

秋まで多彩な企画 「おかえり、芭蕉さん ふるさと伊賀へ。」

令和6年(2024)は、伊賀市で生まれ育った松尾芭蕉の生誕380年に当たります。これを記念し、伊賀市内では芭蕉翁生誕380年記念事業が行われています。1月28日のオープンニングイベントでは、福北わかっさんの芭蕉パフォーマンス、関西テレビ放送の関純子さんから6人のアナウンサーによる「奥の細道」朗読会、講演師・玉田玉秀斎による講演「松尾芭蕉」、波多野均さん(高18回)指揮、橋本宏美さん(高34回)ピアノによる上野合唱団のコーラス「芭蕉」が行われました。5月3



古川タクさんデザインのキャラクター「芭蕉くん」

き、月見の献立・宴を鑑賞、追体験します。お料理の再現は、30年近くの長きにわたり伊賀で活動される「月見の献立再現の会」のご協力も得ながら、大阪天王寺出身で埼玉県在住の江戸料理文化研究所代表で時代小説家の車浮代先生に監修を頂きます。現在、芭蕉真筆の「月見の献立」を読み込みながら相談中です。お料理は内容の異なるものになりますが、東京と伊賀の各々で供する予定です。一連の行事を締めくくる第4回は年末開催を予定しています。右記、佐藤勝明先生に監修・ご支援を頂き、「シンポジウム」生誕380年の現代世界・日本において再発見したい芭蕉さんの意味と価値(仮題)と題し、日本全国の6つの芭蕉記念の館を繋ぐ多拠点連携オンラインシンポジウムを実施する予定です。参加を内諾頂いたのは東京都芭蕉記念館、栃木県黒羽芭蕉の館、福島県須賀川風流のはじめ館、山形県山寺芭蕉記念館、岐阜県奥の細道結びの地記念館、そして伊賀の芭蕉翁記念館です。また34回卒の森島喜代治さんのコーディネートで、芭蕉さんに所縁の深い福井からも、安土桃山から江戸時代にかけて、敦賀で近江商人の中継問屋をされていた西村家のご子孫で、松尾芭蕉の「おくのほそ道」の原本である「素龍清書本」を受け継ぐ西村久雄さんにも登場頂く予定をしています。(高32回 宮田 隆)

東京で和スイーツの店

2022年に東京都世田谷区に餅菓子専門「KIKYOYA ORII since 1607」を開店させた桔梗屋織居19代目 中村弓哉さん。大学卒業後に日本菓子専門学校で学び、卒業後は自由が丘の菓子店「蜂の家」や日本橋の「榮太樓總本舗」で菓子製造や商品開発に携わり技術を研鑽。またコンビニスイーツの商品開発やモンプラン専門店のスタートアップ等、和菓子やスイーツを軸に様々な仕事に従事された。

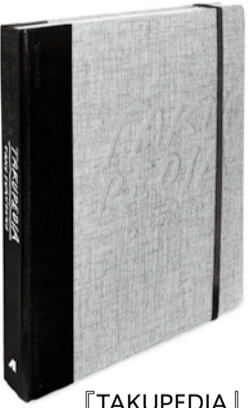


頑張ってます卒業生

中村さんは東京で和菓子・スイーツの仕事に携わるなかで、SNSの発展もあって、若い人にも手に取りやすいコンセプトの和菓子作り、ブランド開発に力を入れ、珈琲や紅茶、あるいはお酒とのペアリングなど、和菓子作りを通して、現代の食卓でよりカジュアルに和菓子を楽しめる文化を醸成したいと、今後の希望を語ってくれた。(高41回 菊山美早)

集大成の著書で受賞

同窓会員2人が昨年、それぞれの活動を集大成する著書を出版し、名誉ある賞を手にした。日本アニメーション協会の会長を務める古川タクさん(高11回)は、画業の集大成として『TAKUPEDIA』(328頁、本体4000円、アニドウ・フィルム)を出版。第53回日本漫画家協会賞大賞をカーニーション部門で受賞した。長年にわたって描いてきたスケッチやイラストレーションなど約1000点を収録。ノートをイメージした造本の表紙を開けば、古川さんの歩みを感じることができる。古川さんは芭蕉翁生誕380年記念



『TAKUPEDIA』

中 相作さん 『江戸川乱歩年譜集成』

名張市立図書館の乱歩資料担当嘱託だった中相作さん(高22回)は、『江戸川乱歩年譜集成』(632頁、税込2万4000円、藍峯舎)で第77回日本推理作家協会賞の評論・研究部門を受賞した。嘱託時代に編纂した同館の「江戸川乱歩リファレンスブック」全3巻から20年後、第4巻として乱歩の生涯を年譜にまとめ、自伝的随筆を抜粋して収録した。卒業生では第60回の評論その他の部門を巽昌章さん(高27回)、第64回の長編及び連作短編部門を麻耶雄嵩さん(高39回)を受賞している。(高19回 池澤素直)

変わる上高 普通科を学際探求科に 杉本校長に聞く

文科科学省は「文理探求」(学際領域に関する学科)の推進を示し、学際領域先進事例として全国の高校から上野高校を含む20校を指定。その内の3校が24年度にスタートし、25年4月から本校も、「普通科」を改変して「学際探求科」となる。この取り組みを含め、杉本校長に近況を伺った。

来年の四月からスタートする三重県初の「文理探求科」について生徒数やクラス編成は?

1クラス40人で「理数科」が1クラスから2クラスに、「学際探求科」が4クラスになります。また、1限の授業時間やコマ数(授業時間数)が変わります。教科が増えますので現在1限65分の5時限授業から1限45分7限授業

母校の現況

各回のつどいから

高5回

米寿の集い・最後の上五会

私たち上五会(じゅうごかい)は、これまで2年毎に各地で開いてきたが、コロナ禍のため中断を余儀なくされ途切れていた。感染状況も落ち着き、5類への移行により制限も緩和され、年齢も「米寿」を迎え記念すべき節目の歳でもあり、ぜひやろうと気運も上がり、5年ぶりに11月19日三田清で開催した。



主にこれまでの参加者に案内を出したが、歳をとるとコロナ禍での5年間のプランクは大きく、この間に体調を崩したり、体力が

へと変わります。

現在「探究」の授業数(理数科)は、現在年間35コマ(授業)ですが、来年度2025年度からは、倍の授業数になります。

一、二年生は、毎日、英数国の3教科の授業を受けるようになります。現在は二年生から理系・文系の選択に分かれています。大学ではすでに進んでいるように、文理融合の学びをすすめます。

学際探求科の特色は?

将来、大学でいろいろな学びにつながるよう、複数の学科を横断的に学ぶ学科です。自分でやりたいことを見つけ、考え、2年間同じカリキュラムで「探求」できるような学科にします。

現在、SSHでは「地域」と「大学」との連携を行いながら「学び方」を学んでいますし、また理数科では大学と落ち、参加したいが上野まではとても無理という残念な返信が多く、中でも、これまで元気な顔を見せていた6名の訃報が家族から届き愕然とした。それでも当日、36名の元気な者が、遠く関東はじめ各地から集まった。

久しぶりの懐かしい再会に、話も尽きることもなく弾み、互いの健康を喜び合い、会も盛り上がりを見せた後、5分間トークに入った。「忘れられないこと」「これまでやってきたこと」「高齢になつての健康維持法」等々。

10名の者が話してくれたが、長い人生経験の中で貴重な話ばかりで、楽しく聞くことができた。次に詩吟の師範である炭本君の「西田誠君の俳句に和す」と俳句の素晴らしい詩吟を聞き、深い感銘を受けた。

また、会への参加は無理だが「米寿」を共に祝おうと金一封を送つてくれたり、蔵元の友からは、サミットで使用された乾杯酒を届けてくれたり、他にも、今年上梓した素敵な詩集や手作りの物入れ、アクリルたわし等の小物を参加者全員に配ってくれるなど、みんなの温かい心のこもった同窓会と

連携し、大学の先生に教えてもらいながらミニ実験なども行い、何度か発表を行うために「まとめる」人に伝える」を繰り返して、二年生から三年生にかけてテーマを追求し最終的に論文をまとめていきます。学際探求科では文理の複数学科を横断的学ぶことで「研究まで」持っていきたいと考えています。

一人一人では進まない研究も、例えば先輩のテーマを引き継いで研究を深めていけるでしょうし、一人が本当にやりたいことを見つけて将来につながる生徒もいるでしょう。

地域について探求し地域の人とつながり、これらの学びを通して、「伊賀を想い」「世界を知り」「発信し」「伊賀に戻る」人を育てていくことが狙いです。

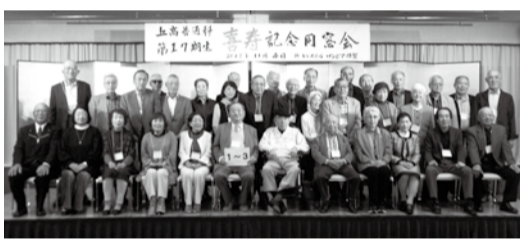
現在は皇学館大学教育学部と連携して、探求の班ごとに学生が一人ずつメンターとして入ります。メンターとして参加した学生11名のうち7名が教員になる実績につながり、この取り組みは、本校にとつてだけでなく、教員不足となつていいる現状にたいして大学側として教育委員会側からも大きな期待が寄せられた。

年齢的にも今回が最後の上五会となつたが、これまで22回も続けてこれたのは、五回生のまとまり、強い結束力があつてのことであり、米寿を共に喜び合い、祝つて名残惜しみながら幕を閉じることができたことは何よりであった。(文責 丸木基雄)

高17回

喜寿を祝う同窓会

全国各地から105名が、それぞれ



せられています。

先生の指導が多岐にわたり難しいのでは、また、探究には先生からのきっかけ作りも重要だと思えますが、この授業では、先生は指導者ではなく「専門家につなげるコーディネーター」だと考えています。現在の理数科などで行つていいる授業でも、関係する専門分野の大学の先生や、専門の企業に指導をお願いするコーディネーターを行つていいます。

探究の授業を担当する先生については、先生の人数に限りがあるなか、探求内容はまちまちです。全員の先生がどこかの授業を受け持つことになり、担当する先生には、コーディネーターとして、自身も探究を楽しんで担当してほしいと期待しています。

評価はどのようにするのでしょうか
大学で行われている「ルーブリック」方式を採用します。非認知能力を数値化するツールを使うことで「見えにくい力」の評価につながり、「自己肯定感」に様々な思いを抱いて集まつた2023年11月4日。

ヒルホテルサンピア伊賀の宴会場は熱気にあふれた。「これが最後、もう再びはない。」
上田君のこの開会あいさつで始まつた同窓会。世話人代表の西岡君は皆様への懐旧を込めて、前回の古希記念をふまえ、今日までの経過を、余すことなく語り続けた。企画進行した幹事諸氏もまた同じたかまを共感して

と現在の生活がありありと、カラオケではなお人生を楽しもうとする生への食欲が隠されていいた。宴が進むにつれ、みな、こらえきれない感慨をぶつけ合つた。席を立つて、待ちわびた人へのアプローチ。互いに影響

につなぐことが期待できます。

もう一つの大きな話題が「制服」の改定ですね。情勢の変化もあり、生徒と保護者両方に対しここ数年間毎年アンケートを取ってきました。その結果概ね毎年の



制服が変わります

結果が次の通りです。「制服は必要か?」に対し生徒の60%、保護者の70%が必要と回答しました。

「今の制服に満足しているか?」に対しては、生徒、保護者の50%弱が満足していません。対しては、生徒、保護者の50%弱が満足していません。

宴の終盤には、もうないはずの、さらに「再び、数年後に」と熱く求める声があちらこちらから聞こえた。「皆、健康、元気でいてくれれば……そして幹事の一角の私も力が維持できていれば……」誰もが一樣に、老いを背負いながら抱いた願いだ。

ありがとう、ではお元気で、と互いに言い交して同窓会は閉じた。今日の思いはさらに明日へと繋がっていくに違いない。

2023年11月5日記 (幹事)

後日、参加者からメール、手紙、はがきが幾度も届き、みな一様に「たのしかった」の内容でした。どうかいつまでも恙なく、と祈つています。(文責 菅生幸三)



高33回

42年ぶりの同窓会

卒業以来、42年ぶりの同窓会を7月14日、サンピア伊賀で開き参加は102名(男性49、女性53)でした。終了後、多くの方から感謝の言葉をいただきました。こちらこそ「皆のご協力ありがとう」の気持ちです。それぞれの元気な顔を拝見しパワーをいただきました。最高に楽しい会でした。(文責 山田康博)

満足と回答しています。ジェンダフリーが進み、伊賀市内の全中学校の制服が今年度から統一のブレザー、スカート、スラックス、リボン、ネクタイを着用となり、男女の別なく選択できるようになっています。本校では女子のスラックス着用も可となっておりますが、セーラー服とのバランスは良くないのが現状です。高校に進学したとたんスカートになることは、時代に合わなくなってきました。気候の寒暖にも対応しやすい制服になっていきます。式典用として新しい制服は全員に購入してもらいますが普段は卒業生にもらったセーラー服の着用も可能です。移行期間については設けていません。

「修学旅行は海外へ」と聞きましたが、韓国への修学旅行を予定しています。国際的な視野を身に着けることへの一助として、経験することが大切だと考えています。

お忙しい中、大変丁寧にお答えいただきありがとうございました。(高32回 峠 美晴)

令和6年度(2024年) 総会のご案内

とき 11月4日(振替休日・月)
14:00~記念講演 15:00~総会
16:00~懇親会(会費3,000円)

ところ ヒルホテルサンピア伊賀
伊賀市西明寺 2756-104 ☎ 0595-24-7000

記念講演

講師 森島 貴代治さん (高34回)

中日本高速道路株式会社
執行役員 金沢支社長



演題 「奥の細道と北陸自動車道」

講師メッセージ

北陸自動車道は、芭蕉さんが『奥の細道』で旅した越後から若狭までの街道筋とほぼ並行しています。この『現代の奥の細道』は、今年、全線開通から30周年を迎えました。芭蕉さんの旅姿をあしらったデザインを旗印として、記念企画を展開しています。北陸地方の街道・高速道路の歴史と、年初に発生した能登半島地震への被災地支援とを、ご紹介します。

懇親会アトラクション

上野高校吹奏楽部アンサンブル



支部だより

新卒業生歓迎懇親会
2024年度の同窓会東京支部新卒業生歓迎懇親会が6月9日に銀座三笠会館本店にて、4名の新卒業生と3名の在学生会をお招きし、伊賀から左橋同窓会長、杉本校長、國井同窓会副会長、

富田同窓会事務局長、理数科の岡田先生にお越しいただき、総勢37名で盛大に開催されました。清水庸一さん(高41回)の司会進行で幕をあげ、中森建夫支部長(高14回)より上高の大先輩で文化勲章を受章された元一橋大学長の増田四郎さんのご紹介をまじえた歓迎のメッセージをいただきました。続いて、ご来賓として左橋佳三会長(高7回)からのご挨拶をいただきましたが、本年度で同窓会長ご退任とのこと、これまでのご出席本当にありがとうございました。さらには杉本校長先生からは、上高を改革する「2025 Revolution 上野高校!」のご紹介あり、長年親しんできた制服の変更をはじめとする変革プランのご紹介がありました。新卒生で本年関東方面に進学された6名中4名が出席、在学生からも昨年参加の2年生2名、3年生1名が歓迎にかけつけてくれました。北出明前支部長(高13回)の乾杯のご発声で懇親会が開始。支部会員の皆さんが学生の皆さんにかわるがわるお話しただく姿が見られました。会の後半では、北出前支部長からご著書の贈呈、さらに立命館アジア太平洋大学元学長の出口治明さんからもご著書寄贈いただき、学生の皆さんにお持ち帰りいただき、田真智子さん(高22回)からも新卒生への温かい励ましメッセージをいただきました。

部活動報告

- 全国高校総合体育大会
○弓道競技の部
男子個人の部
引地夢大(3年)
東海高校総合体育大会
○陸上競技の部
男子5000m競歩
杉本湊(3年)・荒川泰生(2年)
男子4x400mリレー
吉福怜央(3年)・長谷川俊介(3年)・大村緒允(3年)・三浦蒼大(3年)
男子1000m
古川柊斗(3年)
後藤杯卓球選手権名古屋オープン
○卓球部
小林由奈(1年)
全国高校総合文化祭
岐阜県で開催
全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール(全国高校ギター・マンドリンフェスティバル)
○ギターマンドリン部
大阪府で開催
寄付
第18回卒業生 20,000円
第53回卒業生 24,000円
平成4年3年9組卒業生 812,184円
田中賢治(第2回) 10,000円
25,588円

令和4年度(令和4年9月1日~令和5年9月30日) 上野高等学校同窓会一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対比増減(△). Rows include income (前年度繰越金, 入会金, etc.) and expenses (会議費, 運営費, etc.).

令和5年度(令和5年10月1日~令和6年9月30日) 上野高等学校同窓会一般会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 対比増減(△). Rows include income and expenses similar to the previous year's report.

図書寄贈

- 「哀惜の墓標」 田中賢治(2回)
「川端康成作品集」他
池原雅子(12回)
「伊賀一筆FMと乱歩誕生」 中相作(22回)

会員に図書をプレゼント
中相作さんのご好意により「伊賀一筆FMと乱歩誕生」(A5判、ソフトカバー、184頁、本体1800円)を先着10名様にごプレゼントします。2020年から23年まで発行された個人誌「伊賀一筆FM」全17号の合冊と22年初演の戯曲「乱歩誕生」が収録されています。お申し込みは、件名を「白亜見タ本送」とし、ご住所とお名前を明記して、中さん宛のメール(koharustako@gmail.com)で。下のQRコードをご利用ください。

